



市内の産業、ここに集結「はなまき産業大博覧会2014」



市内の主要な産業に触れることができる「はなまき産業大博覧会2014」が11月29日と30日の2日間、総合体育館を会場に開催され、たくさんの家族連れなどでにぎわいました。
会場では市の農業、林業、商業、工業、観光分野の展示を中心に、沿岸商品を取り扱う交流産直「結海（ゆうみ）」の出店や創立100周年を迎えた南部杜氏協会による特別展示など約70のブースで事業や取り組みを紹介。地元産の木材を使用した滑り台や3D技術を駆使したハイテク製品などを前に、子どもから大人まで目を輝かせていました。
また、市内の名産品がそろった「ハイパーハートブーマー」ケットや多彩なステージショーのほか、こけしの絵付けや木工教室など体験コーナーも充実。陶芸体験では、粘土の感触を楽しみながら、思い思いに作品を作る子どもたちの姿が見られました。
来場した皆さんは、魅力あふれる花巻の産業に親しみました。



- 1会場にはさまざまなブースが並び、花巻の産業の魅力が発信されました
- 2ステージでは雑穀料理コンクールの表彰式など、さまざまなイベントが行われました
- 3市内企業の展示ブースでコピー機の仕組みを真剣に聞く子どもたち
- 4陶芸体験をする児童。楽しみながら民芸品について学びました

外国身近に広がる世界

「国際フェアinはなまき2014」が11月23日、花巻市交流会館で開かれました。「見て・体験する！外国！」をテーマに花巻国際交流協会が主催。民族衣装のファッションショーや外国料理の紹介、青少年海外派遣生によるパネルディスカッションなど、多彩な催しが繰り広げられました。
ファッションショーでは、小中高生と海外出身者がモデルを務め、さまざまな国の民族衣装を披露。会場を盛り上げました。来場した皆さんは、外国文化を満喫しながら、国際交流に理解を深めていました。



民族衣装ファッションショーでパラグアイのダンス衣装を披露する小学生

下ノ畑で大きな白菜

白菜の収穫交流会が11月25日、桜町の宮沢賢治自耕の地「下ノ畑」で開かれました。この交流会は、仙台市の市民団体「食の学人の会」が地域の食文化や農業について学んでもらおうと企画したもので、当日は、南城小学校の5年生約80人が参加。畑を管理する「下ノ畑保存会」の皆さんの指導を受けながら、約500株のみずみずしい白菜を包丁で次々と収穫しました。
藤井梨緒菜さんは「芯を切るのが難しかった。お鍋や漬物にして食べるのが楽しみ」と笑顔で話していました。



山のように積み上げられた白菜。学校給食として調理されるほか、市内に避難している東日本大震災の被災者に贈られます

星空へ思いをはせる

こどものつどい「わくわく!!賢治の星空ナイト」は12月6日、まなび学園で行われました。
宮沢賢治の「星めぐりの歌」をテーマにして開催された同つどいには、市内の小学生が参加。花巻東高校の生徒がサポート役を務めました。賢治がどんな人だったかを熱心に学んだり、高校生が考えた賢治にちなんだ遊びを楽しんだりしました。
あいにくの雪で星空の観察はできませんでしたが、星座や望遠鏡の説明を聞いて参加した皆さんは星空に思いをはせました。



星空を見ることはできませんでしたが、子どもたちは本格的な天体望遠鏡に興味津々

音楽で復興への思いを一つに

「奇跡の一本松ヴァイオリンと宮沢賢治のチェロでつなぐ絆コンサート」は11月22日、文化会館で開かれました。
プロの演奏家が東日本大震災の被災松などを材料にしたヴァイオリンと賢治愛用のチェロを奏でた同コンサート。市内小中学生で構成する「金星少年少女オーケストラ」が出演したほか、市内に避難している被災者や沿岸と市内の中学生が招待されました。演奏に合わせて中学生が「星めぐりの歌」と「花は咲く」を合唱するなど、音楽を通して復興への思いを一つにしました。



プロの演奏家、金星少年少女オーケストラの演奏に合わせて、中学生が合唱しました